

(広報資料)

平成26年11月4日
建設局
〔担当：道路建設部道路環境整備課〕
〔電話：222-3570〕
都市計画局
〔担当：歩くまち京都推進室〕
〔電話：222-3483〕

四条通歩道拡幅工事の着手について

四条通を中心とする歴史的都心地区（四条通、河原町通、御池通、烏丸通で囲まれたエリア）は、10の商店街が立地し、多くの魅力的な店舗が集積しており、多くの買い物客が訪れる京都を代表する商業地域です。京都市全体の活性化のためには、歴史的都心地区の活性化が不可欠であることから、京都市では平成18年度から「歩いて楽しいまちなか戦略」を推進し、その中核事業として、四条通の歩道拡幅と公共交通優先化について検討してきました。

この度、四条通歩道拡幅工事について、以下のとおり着手しますのでお知らせします。

1 事業概要

(1) 区間

四条通（川端通～烏丸通）

(2) 延長・幅員

延長：1,120m，幅員：22m

(3) 事業費

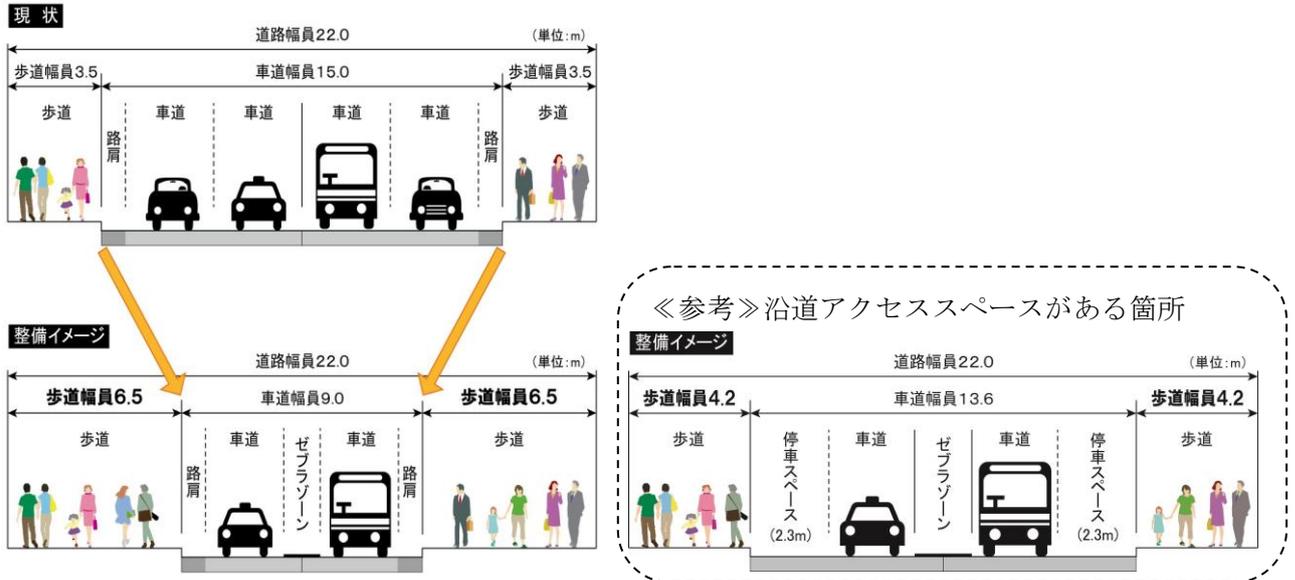
約29億円



2 整備内容

(1) 歩道の拡幅

駐停車車両によりほとんど機能していない歩道側車線のスペースを活用し、歩道を拡幅します。



(2) テラス型バス停の設置

バス停が車道側に張り出したテラス型バス停を導入します。

《テラス型バス停の利点》

- ・バスを待つ利用者の空間が広く取れるようになります。
- ・バス停に隙間をあけずにバスが停車できることから、バスの乗降がしやすくなります。

現在16箇所あるバス停を四条河原町と四条高倉の4箇所(西行き2箇所, 東行き2箇所)に集約し、テラス型バス停を設置します。

バス停の延長は、四条河原町西行き, 四条高倉西行き, 東行きはともにバス約3台分の36mとします。四条河原町の東行きは他のバス停と比較して、停車台数が少ないため、28mとします。



【テラス型バス停のイメージ】

(3) 沿道アクセススペース (車両の停車スペース)

四条通を訪れる方や、物流車両が沿道にアクセスする際に、車を一時的に停車できるスペースを設置します。(15箇所32台分)

沿道アクセススペースは、現在の沿道アクセスの状況を踏まえ、原則として細街路間ごとに設置します。(ただし、構造上、一部設置できない区間があります。)

(4) タクシー乗り場

需要の多い大丸前と高島屋前の2箇所に客待ちが可能なタクシー乗り場を設置します。(タクシーの乗降については、沿道アクセススペースも利用可能。)

停車可能台数は、大丸前が3台分、高島屋前が4台分です。

3 工事内容

(1) 施工期間

平成26年11月17日 ~ 平成27年10月末(予定)

※ 地上機器柵の設置などの準備工については、上記に先立ち、平成26年11月6日より着手します。

※ 祇園祭に支障が生じないよう工程を調整するとともに、祇園祭期間のうち、平成27年7月10日から24日までは工事を休止します。

(2) 時間帯

原則として夜間に施工します。(午後9時~午前6時)

沿道施設の営業及び車両、歩行者の通行に支障のない範囲で昼間に施工することがあります。

原則として日・祝日は工事を行いません。

(3) 工事の進め方

現状の交通に配慮して、原則、工事施工箇所を細街路間で分割して施工します。

【工事進捗のイメージ】



4 整備イメージ

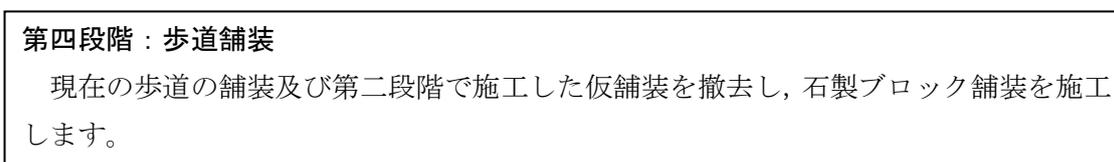
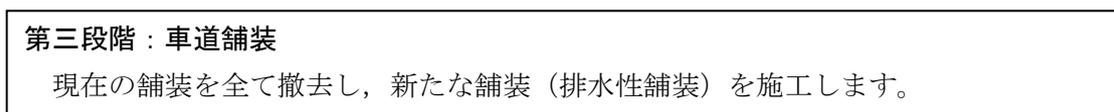
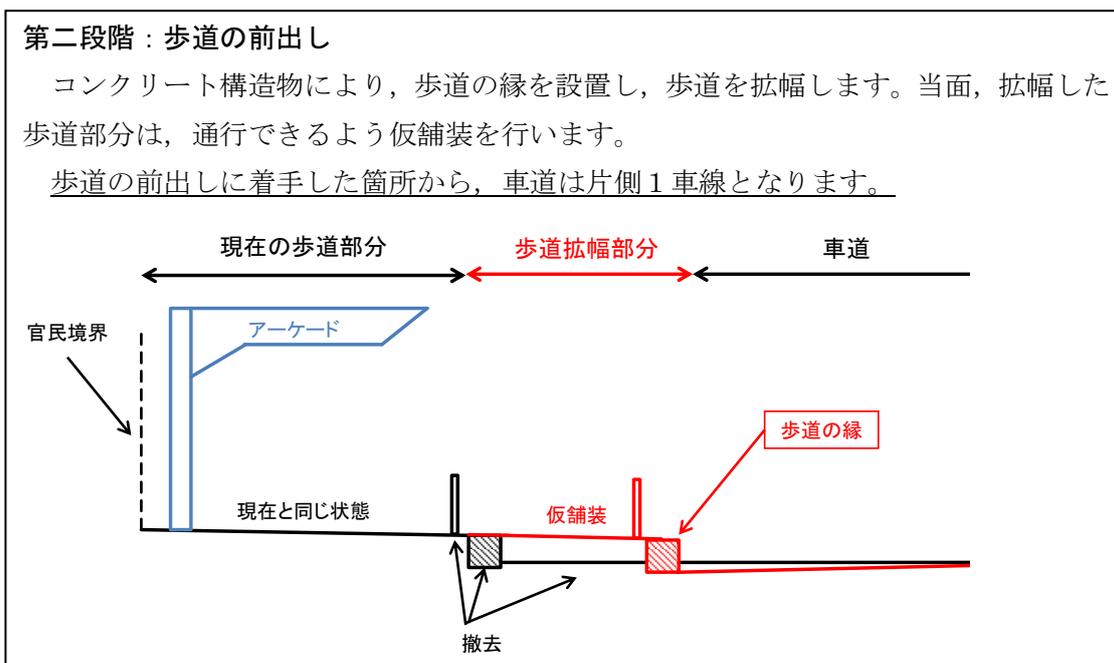
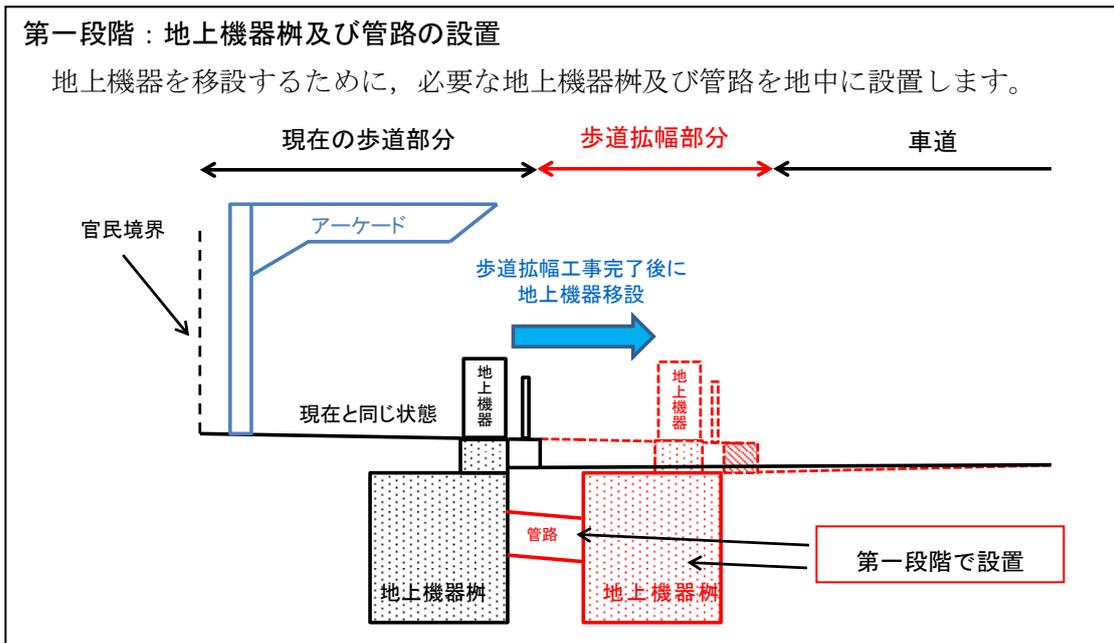
【整備後のイメージ】



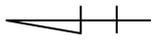
【現 況】



<参考 1 工事の手順>



<参考2 平面図 (抜粋)>

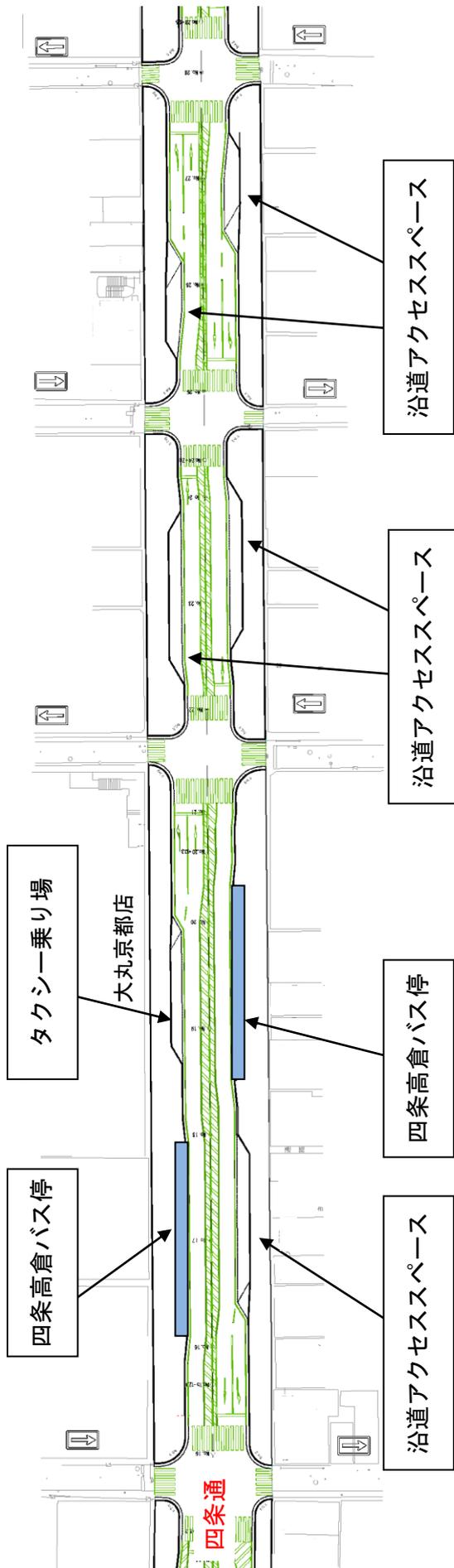


柳馬場通

堺町通

高倉通

東洞院通



<参考3 四条通の現状と整備目的>

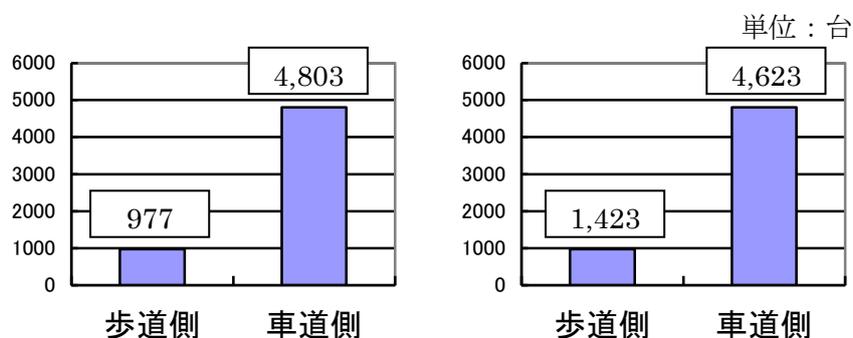
1 四条通の現状

- 幅員15mの車道に自動車を利用する2,200人が通行する一方、幅員7mの歩道に7,000人の歩行者が通行する状況であり、車道と歩道がアンバランスな状況となっている。

※H17 道路交通センサス（四条堺町）休日ピーク時の乗用車交通量 1,154台/時
H17 道路交通センサス 休日乗用車平均乗車人数（京都市）1.9人/台
四条通を車で通行する人数 1154台×1.9人=2193人≒2200人

- 歩道側の車線はバスやタクシー、物流車両など沿道にアクセスする車両が多いことから、通行機能の大部分を中央側の車線が担っている（歩道側車線の交通量は中央車線の1割から2割程度）。

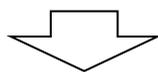
【車種別の12時間交通量（左表：東行き、右表：西行き）】



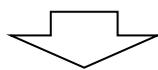
- 市バス、京都バス、京阪バスが運行するなど、バス路線が集中するとともに、地下空間に設置された地下鉄、阪急電鉄、京阪電気鉄道の各駅からの連絡口が多く配置されていることから、交通結節点（ターミナル）としての機能を有する。

2 整備目的

- 既存の道路空間を再配分することで、誰もが快適に買い物を楽しんでいただける歩行空間の確保とバス待ち環境を改善
- 四条通を交通結節点（ターミナル）としてとらえ、路線バスが走行しやすい環境やバス利用者が利用しやすい環境を整備し、公共交通の利便性を高めることで、まちなかへのアクセス機能を向上



人と公共交通優先のコンセプトのもと
四条通を中心とするまちなかの賑わいの創出



京都市全体の活性化